

活用事例 7（日本ホテル株式会社）

卓上・メニューポップ

【ろすのん使用方法】

宴会場の卓上で食品ロスを啓発するための3010運動のポップを掲示。
食品ロスをテーマにした「もったいないメニュー」を提供。
これらのメニューポップにろすのんロゴを入れている。

【効果・感想】

啓蒙活動として取組中。



卓上ポップ

【ろすのん使用方法】

軽井沢プリンスホテル内のbuffetレストランで食品ロス削減を啓発するためのメッセージを載せたポップを作成。
buffetボードおよび客席テーブル上にポップ設置。

【効果・感想】

実際に手に取ったり、写真を撮ったりする方もいて、多くのお客様にご覧いただきました。また、アンケート調査において、「取った料理は、食べ残さないように気をつけた」、「最初に取り量ををいつもよりも減らした」という声も挙げられており、掲示による削減効果はあるものと考えております。

今後は、全国の弊社施設における設置の検討を進めてまいります。



卓上ポップ (社内懇親会にて)

【ろすのん使用方法】

「身近なところから始めるSDGs」をテーマに、社内懇親会時に食品ロスについての説明を行い、各テーブルに「食べ残しゼロ運動」の卓上ポップを設置しています。

【効果・感想】

活動開始以前は、食べ残しが目立っていましたが、掲示を始めてからは、参加者同士が自主的に声を掛け合うようになり「食べ残しゼロ」が達成されています。

社員の「食品ロス」に関する意識向上に向け、今後も活動を継続していく予定です。



<ポスター>



<卓上ポップ>



ホームページ

【ろすのん使用方法】

AI（人工知能）を使った食品ロス削減への取組を紹介するWebサイトに掲載。

【効果・感想】

官民ともに食品ロス削減に取り組まなければならないというメッセージと、「ろすのん」を一緒に掲載することで、その思いがより伝わりやすくなっていると思います。

政府も取り組む食品ロス問題

～NECはSDGsの達成貢献に向けた活動の中で対応～

5省庁が主導する「食品ロス削減国民運動」

わが国における年間約646万トンにも及ぶ食品ロスは大きな社会問題であると捉え、関連する消費者庁、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省が連携。民間を巻き込みながら食品のサプライチェーン全体で食品ロス削減に向けて取り組んでいく「食品ロス削減国民運動（NO-FOODLOSS PROJECT）」が展開されています。



AIによる需要予測で食品ロス問題に対応

NECでは「Orchestrating a brighter world」の実現に向けて、地球規模の課題に対応する「7つの社会価値創造テーマ」に沿って、社会課題起点での事業推進を行っています。「需給最適化プラットフォーム」は国際目標であるSDGsの達成に貢献する活動であり、NECのAI技術により食のバリューチェーン全体の需給バランスを最適化することで、食品ロスの解決に向けた一手となります。

農林水産省 食料産業局 / Food Industry Affairs Bureau. Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.



販促物

【ろすのん使用方法】

- ・消費者向けリーフレット
- ・店頭展開向けハンガー什器、販促ポップ
- ・製品ブランドサイト

【効果・感想】

- ・「ろすのん」を表記することで食品ロス削減をより身近に感じていただけたそうと、社内でも期待を寄せています。
- ・消費者様からも、食材の購入日や調理日、消費期限などの内容をワザアリテープに記入し、ラベルとして使用することで、整理や管理がしやすくなったとのお声をいただいております。



キャラクターと一緒に

【ろすのん使用方法】

社内で食品ロス削減を呼びかけるため、公社で運営している「東京スイソミル」のキャラクター「スイソン」と「ろすのん」のコラボデザインマークを作成。

【効果・感想】

デザインマークを使用したコースターを作成し、歓送迎会で職員によるプレゼンテーションとともに披露しました。かわいい！と好評で、食品ロス削減へ意識を向ける良いきっかけになりました。社外に向けてもtwitter等で取組をPRしています。



【コースター使用方法】

食事を始めるときは、泣き顔の面を上にして使い、食事を全て食べきることができたら、にっこり顔の面に返して使っていただけるようになっています。

【ポイント】

- ★東京都里山保全地域で間伐したエゴノキを使用
- ★社内で結成した食品ロスPTメンバーの手作り！